

コンさる君の

今日も視界良好 代表とインターン編

⑤ 「継続力と行動量」

代表取締役 長尾 康行（中小企業診断士）

平日にも関わらず仕事を早く切り上げて、フットサルと食事会を開催しました。弊社は赤字に苦しむ企業様のご支援や設備投資を検討されている企業様のご支援など、仕事内容が固く、さらに神経を尖らせた状態でのハードワークが長期間続くことから、リラックスする機会が極めて少ないのです。そこで、運動や食事会などで日頃のストレスや運動不足を解消していただき、楽しい雰囲気を味わってほしいという想いで開催した次第です。私自身はジムで鍛えているので大丈夫だろうと軽く考えていましたが、全然ダメでした。

ただの遊びだと言われればそれまでですが、チームビルディングの一環です。私はアカデミックな経営ノウハウよりも、モチベーションやチーム力、場の雰囲気の方が大切だと考えています。所属するメンバーと波長が合っていれば会社は変な方向に行かないだろうと考えています。

しかし、人数が増えてくるとやはり微妙な波長のズレが出てきますのでこういう「非公式の場でのコミュニケーション」調和を図ることが大事だと考えています。今後も所属するメンバーが楽しく働けるように、様々なレクリエーションを行っていききたいと思います。



代表取締役 長尾 康行



⑥ 「勉強するならアウトプット的环境を用意する」 インターン生 瀧澤 佳樹

私は大学院生で、先月北海道で開催された国際学会に参加してきました。そこで、目の当たりにしたのは日本の大学でも流ちょうに英語を話していることです。もちろん、帰国子女であれば、話せているのは普通と思うかもしれませんが、すべての発表が終わった後の座談会で海外経験などを聞いてみると、一部の人は海外経験がないにも関わらず、流ちょうに話せていることに驚きを感じました。そこで、どうやって英語スキルを身に付けているのかを聞いてみると、英語が好きで、日頃から取り入れているとのことでした。具体的には、日常で聞く音楽は洋楽で、後日カラオケで歌ってみたり、映画を見るときは登場人物の言葉をシャドーイングして、英語の字幕で答え合わせを試みたりなどです。また、兄弟同士で普段の会話を英語にするなどとアウトプットの機会が豊富でした。私は小学生から英語を授業で勉強してきましたが、インプットするばかりで、アウトプットを怠っていました。でも、よくよく考えると怠っていたというより、アウトプットをする機会がなかったといえます。ここから、英語を上達したければ、まずは興味をもつ。そして、インプットしたことを日頃からアウトプットできる環境が大切と学びました。勉強をしていると、どうしても本やYoutube、授業などでインプットだけになりがちですが、数時間たてば脳はほとんど忘れてしまいます。今後は勉強する際に、インプットした情報を、復習も兼ねたアウトプットの機会をどうしたら作れるかを考えていきたいと思います。

⑦ 「共通言語をもつ」 インターン生 伊藤 悦子

言語体系を同じくするが、その同じ言語でわかりあえない、なんて場面はよくあります。同じ事を語っていても、人によってその物事への解像度も、見方も異なるし、そりゃ当たり前です。むしろ私だってそうです。カント認識論風に言うと、赤い眼鏡をかけている人には赤く見える、という話ですね。私は入社予定会社の内定式に10月頭に参加し、数百名の同期と3時間交流をしてきました。その数時間で、情報伝達スピードと、その正確さに衝撃をうけました。

同じ言葉に対して少しでも異なる認識をもっていると、情報伝達に齟齬が生じます、または齟齬を修正する時間が発生し、情報伝達スピードが落ちます。例えば「仮説思考」という言葉ひとつとっても、どれぐらいの具体のレベルの仮説なのかで認識は異なりますし、その認識は大抵その人の主観で構成されているため、細部まで同じ認識で共有できる機会は少なく、認識のずれが生じるか、認識をそろえるために修正時間が生じます。が。内定式の交流会はそれがなかったのですよね。

同一具体レベルで言語を共通して持っている感覚があり、それ故情報伝達が正確で速いと感じました、これは何故か考えたのですが、おそらく皆同じ本を読んでいるからだと思います。コンサル本は有名なものが多く、コンサルを目指す人は同じ本を読んでいます。例えば、『イシュードリブン』『ロジカル・シンキング』等々、皆同じ本を読んでいるから、同じ言葉を、同じ文脈で、同じ具体レベルで理解し、使用しています。だから、同じ本を土台とするため、認識の齟齬が無い共通言語を持つことができ、情報伝達スピードが正確に速くなるのだと思います。と、いうことを内定式の帰りに考えていました。私は、まだ学生ですし、社会に出てすらいけないのですが、将来起業したいという夢を漠然と持っています。もし、自分が経営者になったら、情報を正確に速く伝達するため、同じ本を、共に仕事をする人と共有し、同一認識である共通言語を持とうと思いました。人と交流すると新たな発見が生まれ、内定式は非常に楽しいものでした。

⑤ 「釣りの魅力」 インターン生 小甲 智也

幼少期から祖父の影響で釣りが好きなので、今回はざっくりと釣りの魅力をお伝えしていきたいと思います。釣りの魅力は大きく2つあると考えており、1つは釣り自体の魅力です。水中を回遊する魚や同じ場所に居続ける魚など、魚種によって性質が大きく異なるので、その水中にいる魚のことを想像して必要なアクションを取ることで、釣果（釣れるつれない）が変わるという点が、面白いです。（*もちろん運にも大きく左右されます。）もう1つは釣りで広がる交友関係です。

釣り人の平均年齢は57.1歳と年配者の人口が多い点から、職場の上司など交友関係などの構築するのにも有効だと感じています。釣りの詳細に関しては、また後日に記載したいと思います。

⑥ 「ネットによる出会い」 インターン生 野稻 大樹

先日、日本に遊びにきたインドの友人と会いました。彼女とは言語交換アプリ（日本語を学びたい英語を話す外国人と英語を学びたい日本人とをマッチングさせてくれるアプリ）を通して半年ほど前にマッチングし、これまでメッセージや電話でやり取りし、先週初めて実際に会いました。彼女はインドの米国大使館で働きながら、巷のカフェやバーなどで音楽活動をしており、彼女と話していて英語だけでなくインド情勢だったり、音楽のことだったり、いろんな考えや価値観なども学ぶことができました。この時代、日本国内であろうと海外であろうと住んでいる場所に関わらず、とても簡単に人と繋がれるようになりました。もちろんネットの出会いによるトラブルや犯罪は相次いでおり、ネットを通じた出会いに対する不信感を抱いている人も一定数いるとは思いますが、私はこれを普通に過ごしていても出会えない自分とは全く違うバックボーンを持った人たちと出会い、自分を新たなステージへ成長させるチャンスだと考え、うまく活用していこうと思います。

※上記の内容は私個人の考えです。ネットによる出会いはリスクを伴うものなので、あくまで自己判断でよろしくをお願いします。

⑦ 「マッチョまでの最短距離」 インターン生 宮川 尚也

半年ほどジムに通っている。21歳にして階段で息が上がってしまったことに焦燥を感じて通い始めた。最近正しいフォームを覚えて、少しずつ扱える重量が増えてきて嬉しく思う。さらに、人目がなければ階段を一段飛ばしで上ってしまうほどの余裕を手に入れた。しかし、もやしまいたいに細い体形は未だに変わらない。まだまだジムの先輩マッチョたちには遠く及ばない。

入会当時に感じた圧倒的な居心地の悪さを今でも鮮明に覚えている。筋骨隆々の男たちが大きなダンベルを上げまくっている隣で、もやし体形が小さなダンベルに苦しんでいる姿はどうしても恥ずかしい。しかも、ジムという場所は鏡張りにしやがるので、嫌でも格好悪い姿を見せつけられる。普段の生活では感じたことのないアウェイ感を、ジムに一步踏み入れるとを感じるのだ。しかし、文句を言っても月謝8000円は返ってこない。恥ずかしさを捨てて「隣のマッチョよりマッチョになってやるぞ!」と意気込んでトレーニングを始めた。しかし、体格差がありすぎて意気込みは長く続かない。作戦変更だ。比較的自分と体格が近いマッチョの卵をライバル認定して、トレーニングすることに切り替えた。

これがなかなか効果的で、ライバルの存在があと一回踏ん張るための原動力になってくれる。大きな目標を立てることは素晴らしいが、実現可能性が高い小さな目標が身近で支えてくれないと挫けてしまうのだと感じる。私の最近のライバルは月に一度くらい私と同じタイミングでジムに来ているほとんど私と体格が変わらない人だ。その人は、5キロほど私より重いダンベルを上げていることをひそかに確認済みだ。高みで待っているよと競争心を燃やす。

ライバルの存在は行動を駆り立ててくれる。頑張れば勝てそうなライバルを設定し続けることで、大きな目的を達成できるかもしれないと自分を鼓舞する。今日、私は鶏胸肉を買ってから家に帰る。いつかマッチョになれる日を信じて。

⑧ 「空席」 インターン生 平手 陸翔

祝 阪神タイガース日本シリーズ進出! 先月のニューズレターでも書かせていただいた通り、私は大の阪神ファンで、今回のクライマックスシリーズの初戦のチケットが運よく当選し、祖父と2人で甲子園に行ってきました。勝利という内容もそうですが、1回表に1つ目のアウトを取った時の歓声の凄さに短期決戦の価値の大きさを感じ、鳥肌が立ちました。

そんな甲子園での試合、私たちが観戦した座席の隣4席と前3席が終始空席だったのです。チケットは発売即売で満員であるはずの甲子園にはその他にも数えきれない空席がありました。そのうちいくつかは直前の体調不良や急用で来るができなかったものかもしれませんが、多くは社会問題にもなっている高額転売が原因です。今回は腹立たしい気持ち以上に、寂しさや悔しさを覚えました。本来はそこに座りたくても座れない人がいて、すでに鳥肌ものの声援がもっともっと大きかったかもしれないと考え、その空間と一緒に楽しめたかったという気持ちです。試合を見るだけなら家でテレビを見るのが一番見やすいですが、それでも球場に足を運びたいと思うのは数万人が1プレー1プレーに注目し、熱狂し、心動かされるあの空間を共有することに喜びがあるからだと思えます。週末から始まる日本シリーズでは1つでも空席が少なく、1人でも多くの方があの空間を楽しむことができることを願っています。



発行元：株式会社フラッグシップ経営 経営革新等認定支援機関

大阪本社：〒541-0043 大阪市中央区高麗橋3丁目2-7 ORIX 高麗橋ビル5階

和歌山支社：〒640-8392 和歌山県和歌山市中之島1518 中之島801ビル12階

TEL：0120-34-8776

FAX：06-7635-8214

MAIL：info@flagship-keiei.co.jp URL：www.flagship-keiei.co.jp



⑤「成長が止まる時を回避する」 マネージャー 木戸 貴也（中小企業診断士）

「この程度でもいいか」、「前と同じようにしておこう」など現状維持となり、更に良くしたいと思わなくなった時や「自分はできている」、「自分の仕事に満足している」となった時に人の成長は止まってしまう。これらに共通するのは、欲が無くなっている、弱くなっているということです。これら以外にも成長が止まる時があります。それは、「自分よりも下のレベルの人が気になりだした時」です。本来、成長は下ではなく、上にあるものであり、下を気にしている時点で成長意欲が無くなっているのです。成長を続ける人は、更なる上を目指し続けるものであり、その姿を見せることで下からの成長を促していくのです。

マラソンでは、後ろを振り返ると0.1秒タイムが遅くなるや後ろのランナーに余裕が無いことを伝え、隙をみせてしまうことから、「振り返ってはいけない」とも言われたりします。常に前を見て走り続け、常に学び、より良い仕事をし、できているの基準を自ら上げ続けていかなければ、ライバルに追いつかれ、後退するだけです。どうすればもっと良くできるのか、次はもっと良い仕事をしようと思い、日々精進していきましょう。



⑤「思い出の串カツ屋さん」 経理・総務 松野 あやか

先日、私が小学生の頃から祖父母に連れて行ってもらっていた創業50年以上の串カツの老舗が、9月末で閉店してしまいました。なんばという大阪を代表する繁華街の一つの割と静かな地下飲食店街の一角にあるお店で、私の母も小さい頃から通っていた親子3世代で大好きなお店でした。祖父と相撲観戦や買い物に行っていた際は、必ずこの串カツ屋さんに寄っていました。祖父は、3年前に亡くなり、営業最終日一緒に行くことはできなかったですが、祖父とそこでたくさん話をし、小学生の頃から年上の方々と接し方や挨拶を厳しく教えてもらっていた私にとって思い出の場所です。祖父は、この串カツ屋さんに入ると笑顔になり、イダコの串カツを美味しそうに食べていた姿を今でも鮮明に覚えています。

私は、営業最終日に1人で、お店に伺い、小学生の頃から可愛がってもらっていたお姉さん（写真真ん中）も閉店と共に仕事を引退するため、お礼を伝えてきました。

お姉さんと写真を撮った際、「小さい頃からおじいちゃんに連れられて、元気よく、ごちそうさまでした！！と言って帰っていくあんたの姿を見ると笑顔になれたよ。いつも笑顔で挨拶してくれてありがとう。」と逆に感謝されました。私は、改めて何歳になっても自分から挨拶することが大切だと感じました。また、周りから感謝の言葉や別れの言葉をかけられていたお姉さんは、50年以上ずっとお客様と接し、お姉さんの顔を見ただけで安心でき、周りから愛されていたのだと思いました。そして、私も安心感を与えることができる人になりたいとより強く感じました。鳥の巣（なんば店）は閉店してしまいましたが、梅田店は、変わらず営業しておりますので、ぜひ大阪に来られる際は行ってみてください！（観光ガイドブックに載っている串カツ屋さんよりも個人的におすすめしたいお店です。）



⑤「制限時間は20分！究極の1杯を堪能」 ビジネスアナリスト 伊藤 侑加

先日、私用で広島県に訪れました。夕方に少し時間があつたため、「どこに行こうか？」と考え思い出したのが、ビールスタンド重富。知る人ぞ知るビール注ぎの達人、重富寛さんが経営されているビールスタンドです。営業時間は17時～19時までの2時間、滞在時間は20分以内、ビールは1人2杯までと、観光として訪れるには、ややハードルが高いものの、ビール注ぎの達人が注ぐ究極の1杯が飲めるとして全国各地のビール好きが訪れるお店です。17時半に到着し待つこと約1時間。入店すると、そこはまるで、重富さんのビール注ぎのショー会場！ビールサーバーから泡が吹きこぼれるほど、勢いよくビールを注ぎ、泡が落ちついたら継ぎ足すという贅沢な注ぎ方。また、現代のビアサーバーと昭和のビアサーバーの両方でビールを注ぐことで、初めて実現出来るというオリジナルビールもありました。使用する銘柄はすべてアサヒですが、麦芽の甘みが感じられたり、すっきりとした味わいだったり、注ぎ方で味わいが全く変わることには驚きました重富さんのビールの注ぎ方に夢中になりながら、ビールを2杯飲んだらちょうど20分。後ろ髪を引かれる思いでしたが、それぐらいの時間での退店が満足度も高く良いのかもしれないと思いながらお店を出ました。今回は広島県のビールスタンドに訪れましたが、東広島市（西条）の日本酒も有名なので、いつか西条酒まつりにも行ってみたいと思いました。



⑤「目の前の壁を一つずつ乗り越える」 ビジネスアナリスト 古川 悠樹



9月末にものづくり補助金15次の採択発表がございました。私が担当させて頂きました事業者様が、無事に採択され御礼のお言葉を頂戴しとても嬉しかったです。一方、全力でご支援をさせて頂きましたが、採択出来なかった事業者様もいます。現在、事業者様と協力し合いながら、次こそは採択できるようご支援させて頂いております。補助金支援を通じて事業者様が今後どう展開していきたいのか、ありがたい姿は何なのかをしっかりとイメージし、それを具現化し、分かりやすく伝えることがとても大切だと思いました。これからも、誠意を持ってご支援することを忘れずに、事業者様に信頼頂けるよう、一つずつ丁寧な業務を努めて参ります。

⑤ 「旧友から得た刺激」 ビジネスアナリスト 秋定 皇輝



友人が少ないで有名な私ですが、先日数少ない友人と仕事終わりにご飯に行ってきました。その友人とは中学時代に知り合い、当時は頻繁に遊んでいたのですが、卒業後は数年に1度会うか会わないかの交流になっておりました。前々回に会った際には消防士として就職し退職、その後は中小企業の鉄鋼メーカーの営業職へ転職した、というところで話が終わっていました。ですが、先日話をしていると、仕事も順調に進み、会社が M&A を検討している企業で、買収後に営業部長となるかもしれない。まだ駆け出しで勉強中のため分からないことも多いけれど、楽しみながら働いている、という話を聞けました。それ以外にも、趣味や家族の近況、美味しいごはん屋さんの話題などで盛り上がり、束の間のリフレッシュとなりました。

中学時代の彼からは想像できない社会人生活を送っていたため、彼の今後が楽しみである一方で、今度は刺激を与えられるように私も負けずに邁進しようと思えたできごとでした。

⑥ 「学び続ける」 ビジネスアナリスト 日野 慎太郎



10月末に中小企業診断士の2次試験を受けます。昨年の試験に落ちてから、再スタートを切り、勉強を続けてきましたが、続けることができたのも支えてくれた会社、家族のおかげですので、その方の為にも全力で挑めます。試験直前になって、ふと、中小企業診断士の勉強を始める前の自分を思い返してみました。

それまで、前職では、約10年間、技術系の職種で回路設計に従事していたこともあり、経営や会計のことはほとんど知りませんでした。お恥ずかしい話ですが、B/S、P/L もあまり分かっていなかったぐらいです。

ですが、勉強を始め、毎日少しずつでも勉強を継続して数年経った今、勉強を始める前の自分と比べると、確実に成長していると感じます。今回の試験の結果は、どうなるか分かりませんが、どちらにせよ、確実に自分の成長に繋がる学習は今後も続けていきたいと思っています。以前、受けた研修で80歳の方が参加されており、「学び直しの為に研修を受けている」ということを仰っており、とても感銘を受けました。私も「学び」を続けて、有意義な人生にしていきたいと思っています。

⑦ 「謎解き力から得られるメリット」 営業事務 吉川鈴夏

前回の自己紹介の中では触れませんでした、「謎解き」も私の趣味の1つです。最初はクイズ番組で出題される謎解きが好きで、よくクイズ番組や謎解き番組を見ていました。謎が解けたときの達成感やひらめいたときの爽快感に加えて、リアル脱出ゲームにはストーリー性があるので、異世界に入り込んだような感覚が好きです。趣味で始めたリアル脱出ゲームですが、転職活動中に仕事で活かせる力が身につくのでは？と感じました。「謎解き」というと「頭がやわらかい」「頭の回転が早い」と一般的には思われるのではないのでしょうか。確かに私自身も、謎解きにハマった当初に比べれば頭がやわらかくなった自覚はありますが、謎解きから得られる力はそれだけではありません。例えば、リアル脱出ゲームでは自分以外の仲間と協力して進めていくことが重要になってきます。瞬時に自分が今、何をすべきか考えたり、自分が得た情報、思ったことを全て仲間に話したりすることが大切です。これは仕事をする上でも大切な、報連相や先回り力に繋がると思います。

また、周りを観察し、違和感や違いに気づく注意力。情報を多角的に捉え、答えまでの道筋を組み立てる分析力。等々、、他にも様々な力がリアル脱出ゲームには必要で、自然と身に付きます。そして、ゲームが終了した後は一緒に参加した仲間との絆が深まることもリアル脱出ゲームの醍醐味ではないかと思っています。楽しみながら、様々な力を身に付けられるリアル脱出ゲームにはメリットしかありません。皆様も機会があれば是非「リアル脱出ゲーム」に参加してみてください！

⑧ 「朝の有効活用」 営業事務 造田 朋夏

私は数年前まで早起きが苦手でどちらかというと夜型の生活をしていました。毎日寝起きは良い私が早起きが嫌いだった理由は、万が一寝坊してしまったらどうしようと不安になってしまうことや、早起きをして結局ダラダラすることが多く時間を有効に使えなかったからです。しかし社会人になり数年経った今は、休日でも平日起床する時間になると自然と目が覚めるようになりました。学生の頃には四度寝ぐらいできていたはずなのに、今では二度寝すらたまにしかなくなりました。徐々に朝への苦手意識も薄れていき、朝の時間をもっと有効活用したい！と感じるようになり、早速先日朝からカフェに行ってきました。SNSでも有名でお昼に横を通るといつも大行列ができて人気店ですが、朝は全く並ばずに入店することができとても得をした気分になれましたし、その日はカフェを出たあとも買い物やランチをするなど充実した1日を過ごすことができました。朝活のメリットは1日を長く感じられることだと改めて感じました。朝の有効活用方法を探すことが今の私の楽しみです。

⑨ 「自己紹介」 営業事務 中村 菜摘

皆さん、はじめまして。10月より営業事務として入社いたしました中村菜摘と申します。前職は銀行で金融商品の営業や商工会議所で中小企業支援に従事していました。

「明るく元気に」をモットーに事業者様やコンサルタントのサポートに全力で取り組んでいます。直接お会いする機会は少ないかもしれませんが、ご来訪いただいた際やお電話でお話する際には、どうぞよろしくお願いいたします。写真は愛車のコペンで和歌山の煙樹ヶ浜へドライブに行った時の一枚です。どこかいいドライブスポットがあれば是非教えてください ^^

生年月日：1993年7月24日 出身：和歌山県岩出市 趣味：キャンプ、ドライブ、美味しい立ち飲み屋探し



今日も視界良好 和歌山オフィス編

⑤ 「40歳を機に運動習慣を見直す」 ビジネスアナリスト 杉本 貴弘（中小企業診断士）

先日、40歳の誕生日を迎えました。人生の折り返しと言われる年齢を特別に意識はしていませんが、年齢を重ねるにつれ体力の衰えを感じています。10月に行われた社内イベントのフットサルでは、意識に体がいつかず足が絡まってしまいました。（これは日頃の運動不足によるところが大きいですが…）

これまでは趣味でツーリングやスポーツ観戦、旅行等を楽しんでいましたが、歳を重ねるにつれて活動の選択肢は狭まります。何事に取り組むにも遅いという事はありませんが、取り組むための体力や時間が年々短くなるからです。私が今からプロのスポーツ選手を目指しても花開くことは非常に難しいでしょう。

しかし、スポーツでも趣味程度に始める分には問題ありません。10年後、20年後も元気に動けるようになるために、何かしらの運動は必要です。先月のニュースレターではジムに行ってみたことをお伝えしましたが、

実はゴルフの体験レッスンにも参加し、クラブの握り方から始まりスイングの仕方を教わりました。ゴルフコースを回るまでは行かずとも、打ちっぱなしで軽く運動できる程度に学べればと思ったのですが、全5回のレッスンはなかなか多忙な時期で一緒に行く仲間もいなかったため最後まで継続できずに体験期限を迎えてしまいました。10月23日から橋本が本社から転属となり、和歌山支店に若い力が加わりました。当社はデスクワークが多い業種ですので、自転車やバッティングセンター、ボーリングなど月に1回でも2回でも体を動かす機会を作ろうという話もしております。一度は諦めたジムに通うことも、共に頑張る仲間がいれば継続できるかもしれません。



⑥ 「朱に交われば赤くなる」 ビジネスアナリスト 橋本 大治

橋本は10月23日（月曜日）より、和歌山支店での勤務となっております。慣れない環境で勝手が異なることも多く、まずは環境への適応から始めなければなりません。

現在、和歌山支店は杉本と2名で運営しておりますが、ゆくゆくは人を採用し、1つの組織として大きく発展させていきたいと考えております。しかし、拡大に際して重要となるのが社風です。

これまで培ってきた風土や強みが和歌山支店に切り分けたことで上手く承継されず、悪い方向で全く違う組織になってしまうリスクがあります。どのように組織を正しく拡大させていけば良いかを考えた際に、具体的な取り組みも考えましたが前提として自身が社風の語り部にならなければならないといけなことを改めて強く思いました。

タイトルの「朱に交われば赤くなる」はよく言われることわざですが人は周囲の影響を受け、良い方向にも悪い方向にも変わっていくという意味です。組織に染まるという言葉は耳にしますが和歌山支店が現状2人という規模から考えると1名入社があった際にこれまでの組織風土とは異なる人（比喩表現として青い人）が入ってきたことで、こちらが変わってしまう（青が混ざり紫になる）可能性があります。割合で表すと33%が社風を未だ理解していない人になってしまうことを考えると注意しなければ崩れてしまうことは至極当然だと思います。

このため、確固たる「朱」であり続けなければなりませんし、自分たちの「朱（軸）」が何かについても共通認識を持つておかなければなりません。現時点で入社予定はありませんが社風という点についても今から杉本としっかり話しあっていきたいと思います。



⑦ 「静かな仲間」

和歌山支店は現在、杉本と橋本の2名体制で行っており、人数的には少し寂しさがあります。しかし、和歌山支店には実はもう2名（？）の仲間がいます。それがグリーン（観葉植物）の「ワッキー君（ワーネッキーレモンライム）」と「ラッキー君（パキラ）」です。ワッキー君はそのまま正式名称を縮めた愛称でラッキー君は風水的に運気（金運）を高める観葉植物とのことなのでラッキー君と命名しました。せっかくなので今回の和歌山トピックではワッキー君とラッキー君のプロフィールをご紹介します。

【ワッキー君】 写真左

正式名称：ワーネッキーレモンライム

出身地：熱帯アフリカ

特徴：寒さや乾燥に弱く、直射日光を避けた日影が好みだそうです

親戚：大阪本社のまっさん（マッサンゲアナ）



【ラッキー君】 写真右

正式名称：パキラ

出身地：中南米

特徴：日光が好きでしっかり浴びせると大きく育ちますが元気が良すぎて伸びすぎてしまう場合によっては剪定が必要です

風水：金運アップ